

和地ひとみレポート No.217

「東大和市第4次行政改革大綱推進計画取り組み状況について（平成27年度）」

「施策評価結果報告書～平成27年度の振り返り～」

「平成28年度 事務事業評価における外部評価会議結果報告書」

「平成28年度行政評価推進会議における最終評価」

続々公表される施策や事務事業の評価結果 結果を受けたこの先の取り組みの変化は



■公表された様々な評価

…毎年、この時期になると東大和市の様々な取り組みに対する各種評価が公表され、市議会議員にも配布されます。まず、10月28日付で配布されたのは『東大和市第4次行政改革大綱推進計画取り組み状況について（平成27年度）』。この第四次行政改革大綱推進計画は、その取り組み期間を平成24年度～平成28年度とし、第三次基本計画における「行財政運営」の実現を図るために策定された「第四次基本計画」と整合性を図られたうえで作られた計画です。そして、この推進計画に対する平成27年度（昨年度）の取り組み状況についての評価は各担当課で実施、公表されます。（11月5日付の市報及び市のホームページでも公表）

…また、11月2日付で配布されたのが『施策評価結果報告書～平成27年度の振り返り～』、『平成28年度 事務事業評価における外部評価会議結果報告書』と『平成28年度行政評価推進会議における最終評価』です。

…『施策評価結果報告書～平成27年度の振り返り～』は、東大和市総合計画に掲げる32の施策について、各施策の関係課長が平成27年度にどのような取り組みを行い、活動指標に対しどのような結果となったのかを数値で表し、主な成果は何だったのかや、現時点での課題と今後の方向性や対策について明記されたものです。

…また、『平成28年度 事務事業評価における外部評価会議結果報告書』は、東大和市が5年前に施行した結果、実施することになった外部評価の結果。外部評価委員（＝要綱では市長が指名した者4名以内と公募による市民4名以内となっている。今年の外部評価委員は7名。うち女性は1名。）により、市が実施している事務事業に対し、市民目線で意見を出し合い、最終的にその事務事業に対し「今後どうするか」「コストはどうすべきか」「成果についてはどうすべきか」について各委員に確認を取り（多数決を取り）その結果を市長に報告するものです。今年は17の既存事務事業が取り上げられました。

…『平成28年度行政評価推進会議における最終評価』は、事務事業評価のうち、客観性の高い判断が必要な事業について、副市長を議長として各部長ならびに議会事務局、その他の参事などで構成した行政評価推進会議で出した最終結果です。

今年度は市が平成27年度に実施した425事業のうち6事業が取り上げられ、その結果が公表されました。（これら3点についても概要を11月5日付市報で公表。全内容は市のホームページならびに市役所内の行政情報コーナーなどで閲覧可能）

■結果をどう見るか・・・

…さて、昨年度＝平成27年度の取り組みを中心に、様々な評価が公表されたところですが、この評価結果を『市民はどう受け止め、この先をどうイメージしたらよいか』というのが、私の最初の印象です。

…まず、一番市民感覚に近い評価は『平成28年度 事務事業評価における外部評価会議結果報告書』で、この報告書を見ると「なるほど、市民（＝民間）は、そう感じるよな」と同感できる意見や「立場や考え方によって、受け止め方、意見がだいぶ違うものだな」というものもありますが、全体として「自分たちの問題」として真摯に受け止めたうえで、率直に出された意見や要望という印象でした。ただ、改善をした方が良いと感じた点は、会議が平日の日中に開催されるため、幅広い世代（特に現役世代）の参加が難しいこと。外部評価委員の方の感想には「市が様々な事業をしていることが分かった」「行政の在り方がわかり、実現できること、出来ないこともあることが理解できた」というものや、「幅広い人を取り入れてほしい」という意見もあったことから、市は様々な年代や立場の人を外部評価委員とする取り組みについて工夫をすべきだと思います。

…この『平成28年度 事務事業評価における外部評価会議結果報告書』で取り扱った事業のうち、6事業について最終評価を出したのが『平成28年度行政評価推進会議における最終評価』。先に述べたように、ここでの取り扱いは、『客観性の高い判断が必要な事業』ということもあり、外部評価会議の結果を参考に最終評価を出しているのですが、その最終評価を見ても、今後の取り組みの方向性とこの先どう変わるのかといった具体的なイメージがわかりません。外部評価委員は市民で構成されているため「こうしてほしい」「こうした方がよい」という意見を出す形になりますが、それを具体的な策や取り組みに落とし込み、形にするのが実務者である行政の役割だと思います。

（裏面につづく）

■評価の基準は

…では、実務者である関係課や関係課長が取り組みについて評価(振り返り)をしている『東大和市第4次行政改革大綱推進計画取り組み状況について(平成27年度)』、『施策評価結果報告書～平成27年度の振り返り～』はどのようなものか。まず『東大和市第4次行政改革大綱推進計画取り組み状況について(平成27年度)』については、取り組み期間の各年度の取り組み目標について「達成」「一部達成」「着手」「未着手」という評価を行っており、『達成状況や今後の方向性』についての短いコメントも明記されています。

…この評価の基準については、最初に説明が書かれています。例えば『達成』という評価の場合は「項目の取り組み内容について成果・結果が出ている場合」に出される評価となっていますが、『達成状況や今後の方向性』の中で、具体的な成果が書かれている事業はあまり見当たらず、その取り組みについて「やった(実施した)」ことのみが明記が目立ちます。私の感覚では、「取り組んだ結果、目標としていたことが実現した」ことが『達成』であり、取り組んだだけでは『達成』といえないのではないかと思います。実際には取り組んだことで『達成』としているように感じるものが多く、「この取り組みは何に向かって、何を実現させようとしているのか」と疑問を感じるものがあります。

…また、『施策評価結果報告書～平成27年度の振り返り～』には、もう少し詳しい評価が書かれており「主な成果・活動指標」として、各年度の数値目標が設定された中での結果に対する評価(この場合『振り返り』)が行われていますが、この数値目標に対し「達成状況」に対するコメントは担当課によってバラつきがあり、市として何を基準に評価や振り返りを行っているのかが不明です。

…例えば、待機児童解消を目指し、小規模保育の開園など新たなことを実現させている「児童福祉の推進」については『子育て支援に対する市民の満足度』が活動指標の一つに掲げられており、H33年度には満足度21.2%を目標としています。そんな中、H26年度の満足度は15.7%だったことにに対し、H27年度の満足度は12.0%と低下。様々な取り組みを実現しているながらも、市民の満足度が低下していることにに対し、「子育てニーズに対応したが、市民の満足度の増加にはつながらなかった」とし、今後の方向性や対策が明記されています。

…一方で、「工業の振興」「商業の振興」「観光事業の推進」なども、それぞれの市民の満足度を指標として掲げ、H33年度の目標値を設定していますが、H27年度の満足度は、すべてH26年度より低下。そんな状況の中、「主な成果・活動指標の達成状況」のコメントは「概

ね順調である」の一言で、数値が下がっていても順調としている理由が書かれていません。

…おそらく、行政側は「各担当課に評価の内容は任せている」という回答をすることが想像できますが、中期的な目標に対して、どこまで進んでいて、何が課題なのかを市民に知らせるために公表しているのなら、市民が見てイメージできるようなもの、そして、一定の基準をもって評価したものを公表すべきです。これらの評価を公表することが「目的」化してしまうようなことがあってはならないと感じます。

■受け手がイメージでき共感できるものを

…このレポートの10月23日

No215号に示したように、市の取り組みは「基本構想」⇒「基本計画」⇒「実施計画」⇒「予算・執行」と取り組みがより具体化されていく仕組みになっています。



また、行政が何か発言、明記した場合「あの時、ああ言ったじゃないか」とトラブルになる恐れを懸念して、たとえアイデアがあっても「案」として公表しないことは十分承知しています。これは、受け取る側の市民にも問題があるかもしれませんが、「検討する」「図る」「推進していく」といったような表現ばかりでは、現状の問題、それに対する市の対策がまったくイメージできません。

…実際、具体的な取り組みは予算案の中で示されるのですが、様々な書類が細分化されており、一つの流れの中での進捗がイメージしづらくなっていると思います。行政側も「市は何をやっているんだ」と市民に理解されづらいことを課題に感じていることを良く耳にしますが、公表をする様々なものを市民目線で見直し、「理解しやすい」ものに改善することも必要です。例えば、各分野の進捗の概要とこれからの取り組み案などを示すものがあれば、市民も市が何を目的にどのような目標を掲げ、実際にどのような事務事業を実施しているのか(もしくは実施する予定なのか)がわかりやすくなると思います。

…先にも述べましたが、「これは決まりだから(以前からの慣習だから)公表する資料を作らなければ」ということで評価が出されているようでは困ります。なんでも、民間と比較するべきではないとは理解しながらも、民間企業が開催する「株主総会」「決算説明会」「経営戦略説明会」など、投資家や顧客、取引先に自分たちの取り組みや目標を公表して、引き続きの、そして新たな応援、支援を獲得する緊張感と責任感をもった公表内容や公表方法を、もう少し行政も取り入れても良いのではないかと感じました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となり、月刊誌『日経WOMAN』でのベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102